

応用地質学会東北支部第7回研究発表会報告（2月）

日本工営(株) 中曾根 茂 樹

日 時 平成11年2月10日(水)
10:00~17:00

場 所 KKRホテル仙台「蔵王の間」

参加者 82名

年度末の忙しい時期に開かれている研究発表会であるが、今年も多く参加者を得て開催された。本年度の研究発表は、一般発表が8件、報告1件、特別講演の企画で行われた。

特別講演「情報工学と地質学の融合の試みー地形・地質情報の可視化ー」

岩手大学工学部 横山 隆三氏

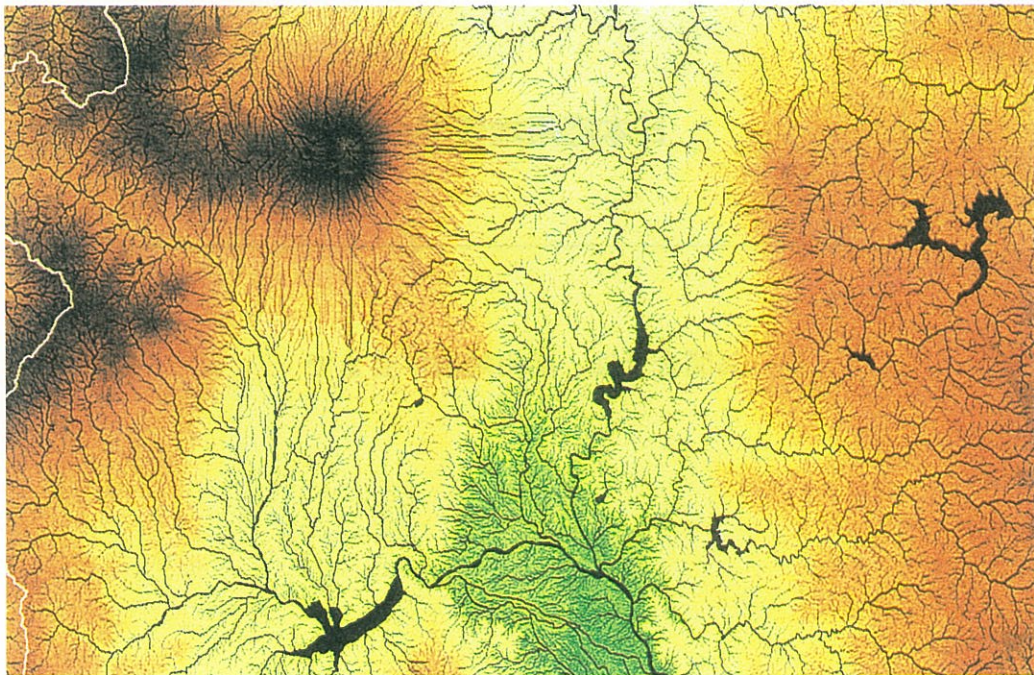
報 告「岩手山の火山活動、岩手県内陸部の地震と防災地質」

東北電力 橋本修一氏

研究発表 発表者区分 大学：2 官庁：2
コンサル：3 建設：1

特別講演は、数値地図50mメッシュデータから作成できるいくつかの主題図（斜度図・地上開度図等）を会場へ持ち込んで、それを見ながらの講演となった。東北地方の地形的特徴が、一目にしてわかる画期的な図面である。横山先生は数値地形データの利用法を、もっと多くの応用地質に関する技術者や行政関係者に知っていただきたいということを強調された。

岩手山に関する報告では、「岩手火山防災マップ」の成立に関する背景やこのマップが、岩手火山発達史の地道な研究成果（土井宣夫氏）をベースに基づいていることなどが紹介された。噴石や火砕流といった現象（災害の種別）と影響範囲について、既往の火山活動の歴史的事実を踏まえて一般の人に提供し、理解してもらい緊急時にそなえるという姿勢でつくられていることが強調された。



岩手県中央部の水系（岩手大学 横山教授提供）

また、橋本氏は岩手県内陸部地震により発生した地震断層により、東北電力の水路トンネルに発生した被害状況を紹介された。地表に現れた変形から断層面の形状が想定され、それが地下の震源断層を直接反映したものであることが解説された。これと構造物の変状（破壊の程度・構造物の相互の動きなど）の関連性が、細かい観察結果に基づき説明された。



研究発表会 会場風景

本年度の研究報告は、全部で8件であった。

官庁関係からは、地山挙動の計測に関する研究が二例報告された。ダム湛水に伴う軟岩斜面の挙動に関する計測結果の評価とそのメカニズムの検討、もう一つは岩盤斜面の対策工施工時における隣接供用トンネルにおける計測管理主将に関する事例である。他にも、支部長自らのAE計測に関

する海外報告もあり、全体として応用地質計測に関する話題が多くなった。また、大学からの岩石の凍結による劣化に関する基礎研究も報告され、一時的にアカデミックな雰囲気会場が包まれることもあった。ほぼ満席の出席者から発表者に対する質問も多く出され、全体として活発な研究発表会であった。

終了後、会場を変えて懇親会が行なわれた。発表者の慰労と会員の親睦を兼ねた恒例のものである。発表者の言い足りなかったことや再質問の声飛び交う場となった。料理とお酒は会計幹事の計らいでたっぷりあり、時間の過ぎるのが短い2時間であった。



懇親会 支部長による乾杯

